

○まず地元の課題を頑張ります

地元を回っているといろいろな課題をお聞きします。

子供たちの養育や教育環境について、保育士や幼稚園教諭の免許を持ってこの分野に従事していく人材を育てる機関が不足しています。具体的な支援を考えていきます。

放課後児童クラブ(学童保育)などは、地域で苦労しながらも急速に広がっています。引き続き、中身を充実させるための努力をしていかなければなりません。学校についても、地域が「おらが学校」だとして取り組むコミュニティスクールを完成させていきたいと思っています。

去年の集中豪雨を踏まえて、鈴鹿川など河川の河床を掘り下げています。山梨県などの雪害が記憶に新しいですが、雪も、雨も、集中的に大量に降ることを想定した対策の見直しが必要です。地元では特に、県や市の管理する小さな河川があふれます。国、県、市が連携して総合的な中小河川計画を実施できるよう、周辺地区の自治会にも参加してもらって、計画を進めています。

南海トラフ地震を想定した災害対策では、海岸堤防の見直しを県の優先課題とするように依頼しています。これまでは、台風と高潮を想定した堤防だったことから、地震には無防備です。地震による液状化で、今の堤防では、2~3メートルの沈下が想定されます。場所によっては、全く崩れてしまって堤防の役割が果たせないものも出てくる可能性があります。さらに、避難体制や支援については、小学校区単位で、改めてきめの細かい防災計画を作ることになっています。その中で浮き彫りになってくる課題に地域の住民と一緒に取り組む準備をしています。

下水道事業でも、寿命の来ている団地のコミプラを流域下水道に早期に繋げば、二重投資を避けることができます。地域の要望を調整し、事業の具体化をすすめています。

JR 四日市駅のエレベーター設置など改修計画が、ようやく決まりました。しかし、他にも地域からそれぞれの駅の利活用に様々な提案が出ているにもかかわらず、JR の腰が重いことが問題です。JR を動かしたいと思います。内部・八王子線の存続が決まったように、もう一度トータルな公共交通の計画策定が必要です。

四日市市が公契約条例の検討を始めています。地方公共団体から発注される事業で、積算単価で想定される賃金が正當に支払われているのかチェックして、公表することで、弱い立場を応援できます。適切な条例化をもとめていきます。

地元の課題は、まだまだ山積しています。がんばります。

○安倍外交は、日本の孤立を招く

アメリカや中国の安保関係者と懇談する機会が多くなっています。アジア外交が不安定な中で、それぞれ何をしたらいいか模索しています。アメリカも中国も共通した問題の認識は、「世界の戦後レジームに安倍政権が真っ向から挑戦を始めたのではないか。」という懸念です。アジアで第二次世界大戦を終結させたプロセスは、日本のポツダム宣言受諾、東京裁判、サンフランシスコ条約です。その中身は、事実論争はともあれ、日本が侵略戦争をしたということ、それを導いたのは、A 級戦犯として裁かれた軍部であったということが確定されました。従って、戦争責任の所在は、戦犯・軍部と定義され、国民と天皇は、免責されたことになっています。こうしたことを前提に象徴天皇制と戦争放棄を基本にした日本国憲法が作られ、平和国家として復帰をしたという認識が世界に共有されていることを日本政府は絶えず意識してきました。

歴史認識の見直しや靖国参拝で、国内世論の右傾化を利用して、それをてこに、憲法改正、自衛隊の行動範囲拡大を進めようとしているのであれば、安倍総理の持っている手段は、世界から見れば全く間違っています。

同盟国のアメリカでさえ「どうなっているんだ、日本は？」と、警告を発するなど日本が孤立をし始めています。

本来はこの時期、アジア全体の集団的安全保障体制(紛争をみんなて抑止するシステム)の構築をテーマに話し合う場を作る時です。にもかかわらず、安倍政権は、どうして戦後体制に挑戦して、中国や韓国にケンカを売ることか。日本がそれをどのように説明しても通じることなく、アメリカやヨーロッパは、日本に失望したと言っているのです。

○民主党、再生に向けて、ご協力をお願いします

民主党の党员サポーターを大募集しています。もう一度みなさまに信任していただけるような体制づくりの真っ最中です。そこで、日本全国で 30 万人の党员サポーターを集めようという目標を立てました。私の三重県第2区では、2,000 人を超える目標です。国民の暮らしを守る政治を推し進めてまいりますので、どうか多大なご協力をお願いします。